

# 令和6年度 第1回美術館協議会

1 日時 令和6年6月25日(火) 15:00~16:30

2 開催場所 みき歴史資料館 3階講座室

## 3 議題

### (1) 報告事項

- ア 令和5年度 入館者状況
- イ 令和6年度 美術館事業の現況

### (2) 協議事項

- ア 令和6年度 後期展示事業活動計画(案)
- イ 令和7年度 展示事業計画(案)

## 4 出席者

(1) 委員 山下泰生会長、石田満美副会長、岩本充洋校長  
米村 環、高谷美貴子

(2) 事務局 森田教育総務部長、手島文化・スポーツ課長、石田文化・スポーツ課長補佐  
平川美術館館長、向山美術館専門員、和田美術館事務補助員

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

\*\*\*\*\*

## 7 会議内容

1 開会

2 委嘱状交付

3 自己紹介

4 会長及び副会長の選出 会長に山下泰生氏、副会長に石田満美氏を選出  
会長挨拶

-事務局報告-(1)報告事項

ア 令和5年度 入館者状況

イ 令和6年度 美術館事業の現況

**事務局:**パワーポイントで映像を見ながら説明

令和5年度の入館数は合計12,233人。コロナ禍が治まって人々が活動し始めた前年度以上の来館があった。

12月8日～24日開催の第48回しぶがき展は三木高校美術部OBで構成されたグループである。655名の来館者だった。

三木市美術協会枠では写真部の岡野靖彦氏、くめだなおこ氏の二人展。写真人気もあり1,362名の来館者だった。同時期に開催していた三木市展会場にポスターを貼るなど工夫した。リピーターも多かった。岡野氏から5点の展示作品を寄贈いただいた。

野口雅史鉛筆画展は2,877名の来館者だった。作成過程を見せながら一つの作品を完成させたり、絵画制作映像を流す絵画コーナーでは、入館者が描いた50点以上の作品も展示した。

堀光美術館コレクション展は612名の来館者だった。堀田光雄氏からの寄贈品とその後の寄贈品を展示。今年度は平面作品の展示だったので来年度は立体作品を計画している。同時期にひとみともか氏を講師としてアルコールインクアートのワークショップも行った。

令和6年度の美術館事業で、4月から6月までの入館数は2,172名だった。

4月28日から5月12日までの三木市美術協会洋画部会展では722名の来館者だった。

5月25日から6月23日までの写俳と書俳 伊丹三樹彦展では、俳句会や三樹彦氏の身内の協力を得て、写俳と書俳作品を中心に展示。開催した俳句コンテストには217名の応募者があり、三樹彦氏の長女啓子氏を審査員として公開審査とギャラリートークを行った。また、最終日に表彰式を行い、三木芸術文化会議協力の賞品と森川桂石氏の書による短冊を贈呈した。839名の来館者だった。

**会長:**コロナ禍も明け入館者数が増加していることは喜ばしい。

**委員:**資料にアルコールインクアート19人とあるがこれも入館者数に入っているか。

**事務局:**入っている。

**委員:**これまでの上田桑鳩展などでの講演会の参加者も入館者数に入っているか。

**事務局:**入っている。

**委員:**俳句コンテストは今回だけなのか、今後も続けるのか。

**事務局:**伊丹氏の活動の影響で三木市には俳句教室が残っており、その講師、愛好家からコンテストの継続の希望がある。美術館では例えば、アート・ティーン公募展の中に含めるなどの案を検討している。

委員：来館者の幅を広げるいい機会なので、是非、続けてほしい。

副会長：アルコールインクアートは人気があるようだが、今後も企画するのか。

事務局：アルコールインクアートの開催について問合せがあるが、今回の講師のひとみ氏は仕事の都合により調整が難しくなったため、他の講師を探している状態だ。

会長：5月の入館者数が昨年度比で200人強の減だが、要因は何か。

事務局：昨年5月は池内悦子展を行った。人気の画家であり企業のバックアップもあり来館者が多かった。来館者数は展覧会の内容によって増減する。令和5年度は来館者1000人を超える展覧会が多かった。

### -事務局報告-(2)協議事項

ア 令和6年度 後期展示事業活動計画(案)

イ 令和7年度 展示事業計画(案)

事務局：10月10日から11月4日までINGひょうご展。INGひょうごとは兵庫県内で活動する18名の作家が構成する団体で、その中の数名は過去に堀光美術館で個展を開いたり、三木市展の審査員をするなど、すでに芸術的な貢献をしていただいている。今年度は三木市制施行70周年への協力としてINGひょうごから展覧会の提案を受けた。森の風美術館と共同開催である。

12月6日から12月22日は第49回グループしぶがき展。

令和6年1月11日から2月2日までは三木市美術協会展枠で書道部の市田山知氏と井関春龍氏の二人展。

2月8日から2月24日までは上田桑鳩の直弟子、上羅芝山氏、神沢知丘氏、高郷石峯氏の書家三人展。

3月1日から23日までは丹波市作家協会と三木市美術協会の合同でたんば・みき合同作品展。

また、今年度、次のワークショップを開催する。

8月3、4、10、11日に陶芸教室を開催。この時期はアート・ティーン公募展開期中であり、来館の家族連れや十代の方向けと考えている。

グループしぶがき展前の1か月間、展覧会がない期間を利用して芸術講座を予定している。昨年度の展覧会で2000人以上の来館があった野口雅史氏を講師とするモノクロの表現を学ぶ鉛筆画教室を11月10、17、24日、12月1日に、11月2、9、16、23日は森川桂石氏を講師として終活の書という書の教室を予定している。

委員：この1か月間に他のワークショップの予定はあるか。

**事務局：**今のところ、先ほどの二つだけだが、場所が空くので作家たちの作品を展示してその前での講座を考えている。

**委員：**このようなワークショップは普段来館しない人を来館に導く良い手段なので、計画し、広報してほしい。

**会長：**他にこのようなワークショップの提案はないか。

**事務局：**希望の声が多いのは、写真教室、木版画教室、陶芸教室だ。実施可能なものは、石を彫って作る落款教室。これは藤原義明氏によると陶芸でも可能とのことである。

**委員：**市内の中学校高校の美術部の活動を後押しするような企画展は出来ないか。また、吉川高校など高校の書道部がパフォーマンスをしているのであれば屋外でそれを行うのはどうか。

**事務局：**吉川高校の書道部は部員がいなくなった。今年は活動していない。三木市内高校の書道部がパフォーマンスしているかはわからない。小野高校はやっているかもしれない。

**委員：**対象を北播エリアに広げるなどして、作品を美術館に展示できれば喜ばれるので検討してほしい。

**会長：**吉川、三木北、三木東高校が統合されることを記念するようなイベントは考えられないか。

**事務局：**美術館としては、例えば、アート・ティーン公募展の課題は三木市からの応募が少ないことだと考えている。もっと、美術館からの働きかけを行わないといけない。一方で、学校には美術専科の先生がおられず、生徒を指導できないという課題がある。また、伊丹三樹彦展の俳句コンテストでは、小中学生の部の三木市からの応募は一人だけだった。伊丹氏の出身である三樹小学校に働きかけるべきであったと思う。美術館がもっと学校に近づくことが必要ではと考えている。

**副会長：**私が参加した伊賀上野での展覧会は、伊賀上野市の施設各所での展覧会で、市長も観覧するなど市全体で盛り上げようという気風があった。子どもたちも行儀よく観覧し、作品に対する自由な感想を話していた。彼らを指導する先生も自由な鑑賞を指導している。いい取組だと思った。三木市には子どもが美術館に行くなどの環境がなく、そのために中学生、高校生になってもそういうことに参加することが少ないのだと思う。スポーツ振興は進めているので三木市や小野市で人材が出てきているが、三木市が文化不毛の地と言われる理由はそこにあるのではないかと思うので、子どもの教育にも目を向けてほしい。

**会長：**市制施行 70 周年ということもあり、何かイベントを仕掛ければ、子どもたちも参加しやすいのだと思う。今からどこまで企画できるかという問題もあるが、将来に向け子どもが参加できる企画が必要だと思う。

ING ひょうご展が市制施行 70 周年への協力としての提案だったということだが、市制施行 70 周年を前面に出す企画はあるか。

**事務局:**ING ひょうごの作家からの提案で、森の風美術館では木の葉でブローチを、堀光美術館ではプラバンでキーホルダーを作るワークショップ、また、ING ひょうごの作家が公募展出展を目指すような若者に制作指導をする相談会を企画している。また、小学校からの見学に応じて平日の講座も可能と聞いている。ING ひょうごの作家から積極的に提案をいただいている。

**会長:**そのような企画を市で広報することへの働きかけは行っているか。

**事務局:**今のところ、広報みき、美術館のホームページ、小さな情報誌等での広報にとどまっている。この点は美術館の弱みであり、今後の検討事項である。

**会長:**三木市制施行 70 周年記念事業の一環として市が認めるのであれば、通常の告知ではなく、多くの媒体で広報することが重要だと思う。それらの企画の広報活動も既に始まっているだろうが、組込める余地があれば動いて欲しい。

**令和 7 年度の展示活動計画案の報告について。**

**事務局:**4 月 5 日から 4 月 20 日まで、立体的作品を展示する語りかけるアートたちⅡ 堀光コレクション展。

4 月 26 日から 5 月 11 日まで、三木市美術協会部会展枠で書と日本画の展示会。

5 月 24 日から 6 月 22 日まで玉田尚之氏の写真展。詳細は後程説明する。

6 月 27 日から 7 月 21 日まで、今年度の木版画から間口を広げて版画展。

8 月 3 日から 8 月 17 日まで、第 5 回アート・ティーン公募展を行い 13 才から 19 才までの作品を公募する。

9 月 2 日から 9 月 28 日までの期間は空けている。

10 月 11 日から 11 月 9 日まで、特別企画展として、彫刻家 西村公泉展。公泉氏は仏師で仏像修理師の西村公朝氏の長男である。

12 月 7 日から 12 月 21 日まで、第 50 回グループしぶがき展。

1 月 10 日から 2 月 1 日まで、三木市美術協会個展枠で彫塑工芸部会の会員を予定。

2 月 14 日から 3 月 15 日まで、木エアーティストと切り絵作家夫妻の CCOZY FACTORY 展。

3 月 28 日から 4 月 19 日まで、企画展 鬼展。

各作家を説明する。玉田尚之氏は、加西市在住、兵庫県立フラワーセンターの野鳥撮影ボランティア、写真教室を行っている。和紙にプリントした温かみのある作品が特徴。ワークショップとして、玉田氏による写真教室を企画している。

西村公泉氏は彫刻家で、父の公朝氏は小野市の浄土寺の阿弥陀如来像に夕陽が当たるからくり気づいた人物である。

CCOZY FACTORY 展の樋口あきふみ氏は木工作家、かな氏は切り絵作家で、平面的なものから立体的なものまで展示される。この時期、毎年三木市観光振興課などに行っているひな祭りスタンプラリーが

あり、家族連れの来館がある。CCOZY FACTORY 展はその層の来館者に楽しんでもらえるものと思っている。

**委員：**アート・ティーン公募展の期間が2週間は短いと思うが理由は何か。前後の日程的には余裕があるようなので、少し長くすることで、夏休み中の美術部の生徒などが来館するのではないか。

**事務局：**展示前の期間は受付、審査などがある。展示期間の後であれば延ばせるが、公募展の来館者は少ないため、講座などのイベントを組み込むべきだと考えている。それが出来れば、期間を延ばすことは有効だと思う。

**委員：**ING ひょうごの作家による制作指導のような美術を志している人向けの講座がいいと思う。美術館のボランティアをやっているが、来館者は年配者が多い。家族連れは来るが、おそらく、美術を志している高校生、大学生の年代が一番少ないと思う。アート・ティーン公募展には美術を志す美術部員などが応募していると思うので、彼らが勉強できるそのような講座が望ましいと思う。

**事務局：**いただいたアート・ティーン公募展への意見は有効であり取り入れて企画したい。アート・ティーン公募展に出すための講座の要望もあるので、併せて検討することで広げていけると思う。

**会長：**アート・ティーン公募展の講座は、対面以外に、若者が良く使っている Instagram、TikTok、YouTube などにアップすることはできるか。

**事務局：**市としての承認が得られれば、作成してアップすることは可能だ。アート・ティーン公募展は10号サイズという規格が最初のハードルになっている。10号サイズで仮額、額装をするのは美術部でない生徒には難しいとも聞く。額装の方法をYouTubeで配信するなど有効だと思う。

**会長：**なぜ10号サイズなのか。

**事務局：**夏休みの一環ではなく美術を勉強している人からの応募を期待していたからと記憶している。

**会長：**美術部の生徒が減っているのに、条件が変わらなければ、出展作品は減る。出展作品を増やしたいのであれば、アート・ティーン公募展の主旨から外れるかもしれないが、条件の変更を検討できないか。

**事務局：**描き始める前に公募展に出す意図をもって描くのと、その意図がなく描いたものの中から良い絵を選ぶのでは、レベルが全く違って来る。応募する意思をもって描くことを後押しすることが必要だと思う。画用紙も可の規格にすると学校の授業の延長の写生大会と同様になる。アート・ティーン公募展の差別化を考えると10号サイズで公募展出品のために描いた作品で応募してもらうことが必要だと思う。

**会長：**アート・ティーン公募展の会期を延長し、集客を上げる同時期のイベントも検討してほしい。協議事項は以上だが、他に発言はあるか。

**委員：**美術館の展示壁面の汚れが目立ってきている。改修可能なら予算措置の上、補修することを検討してほしい。

三木市のホームページの文化・スポーツ課文化芸術系のページの美術館協議会の項目が2020年7月8日以降、ほぼ4年間、更新されていないので更新してほしい。

今回で3回委員に就いたが、この協議会に教育長が出席されたことがない。今日は部長から委嘱状を交付されたが、本来、教育長に交付してもらいたかった。協議会の内容は事務局が報告していると思うが、教育長には生の声を聴いてほしい。

**会長：**ホームページは是非更新してほしい。壁の補修に関しては、来年度計画がある程度決まっているなら、中期的な課題として要検討。教育長のこの協議会への参加については、教育長に確認することは可能か。

**事務局：**壁の補修の件は今年度の予算はないので、必要な費用を確認し、来年度の要望として美術館と検討する。ホームページに関しては、美術館協議会の件は美術館のホームページには掲載しており更新しているが、文化芸術系のページにも掲載していたことは気づかなかった。両方に掲載する必要はないので状況と対応方法を確認して対応する。教育長の出席について、今回、教育長には事前に協議会の内容の資料を渡し、部長が委嘱状を交付することも伝えている。今回の出席は難しかったが、今後は参加できるように働きかける。

**副会長：**大事な作品を預かっているのも、その為の環境が一番大事。雨漏りなども気を付けてほしい。美術館のトイレが外から見えるところにあるが、扉が開いていることがあるらしい。それが不快という声も聞くので閉めてほしい。

新しい公民館ができ、その中にいろいろな施設が入る。その先、美術館は新しく建つかどうか分からないとも聞く。新設も修理もできない現状だが、長期的に美術館をどうするかという検討はされているのか。

**事務局：**三木市では、経営管理課が公共施設再配置計画を進めており、市の規模に対して公共施設が多いという意見もあることから、類似の機能を持つ施設の集約を検討している。上の丸には展示施設という共通性を持つ美術館、歴史資料館、金物資料館がある。また、上の丸の土地は史跡であり、これらの建物の建て替えが出来ないことから、経営管理課の当初案は、三つの施設を歴史資料館に集約するという案で、それが令和12年度からの計画に当たる中期計画となっている。しかし、歴史資料館の建物自体が老朽化しているため、経営管理課、文化・スポーツ課、商工振興課、建築住宅課で意見交換を始めており、市としての方針策定につなげたいと考えている。しかし、現状は対外的に何かを伝えられる段階ではない。

**副会長：**それに関する意見を外部から聞く場はないのか。

**事務局：**今年度、市としての方針をいくつか固めた段階で、外部からの意見を聞かなければならないと考えている。

**会長：**以前から同じような議論がされている。状況の難しさは理解できるが、この協議会はその議論を行うための場だ。再配置計画の中には必ず盛り込んでほしい。

**委員：**堀光美術館には堂本印象、高村光雲などの有名な作品がたくさんある。その作品を傷つけずに保管して残すことも美術館の役割である。今の美術館を補修するのは難しいと認識しているので、美術館を新設するのであれば、その役割を果たせるものにしてほしい。今の収蔵品を失ったり売り払ったりした場合、それは二度と手に入らない。美術館の最低限の役割を考えて建ててほしい。

**事務局：**美術館の規模縮小の意見もあるので、規模の維持は難しいが、美術館を無くすことはない。他課の職員は、美術館等の保管スペースが減らせないという認識がなかった。現状、吉川の体育館など保管場所が分散しているが、一か所にまとめるべきであり、広い場所が必要であるが、セキュリティーが心配な廃校の活用を提案してくる。これに対し、今、美術館、資料館でのどれくらいの規模の保管スペースが必要かの確認を進めている。

**副会長：**セキュリティーが万全でない場所では、良い作家の展覧会はできない。良い作品は運送時に保険をかけなければならないし、館の防犯の設備も完備させなければならない。展示物より保管物が多いのは当然なので、その状況を経営管理課に理解してもらい、必要な施設、設備にしてほしい。

**事務局：**経営管理課に保管スペースなどの必要性を認識させ、要望していきたい。

**委員：**美術館は金沢 21 世紀美術館や岡山県の奈義町現代美術館などに見られるように、観光施設でもある。小さな美術館でも県外から多く来館するという三木市のシビックプライド、ポテンシャルを示す大事な施設であることを訴えて、いい施設を建ててほしい。

**副会長：**有名な作品の貸し出しの申し出はあるが、現状の施設では、それを借りるためには莫大な保険を掛ける必要がある。良い作品を展示できると全国から来館がある。そうなるためには保管場所を整備してほしい。

**校長：**校園長会などで提案される内容に応じて、子どもたちが美術館に行く機会を増やしたいと思うが、教師、子ども、その家庭などが美術の素晴らしさを認識しているレベルに課題がある。対象にあったレベルへの落とし込みがされれば、美術館からの相談に応じてアイデアを出すなどの協力ができる。落とし込みがないと、美術館に行くのは敷居が高いという感覚がある。説明があった本年度の取組も、小学生の目線で、どこが素晴らしいか、どう活かせるかなどのアイデアがあれば、子どもたちとの来館、家庭や子どもへの



周知が行える。

**会長:**今の発言は非常に重要だ。子どもの感性を育てることを学校の美術担当教師にだけ任せるのではなく、美術館が子どもに寄り添うアイデアをもってプログラムを実行すれば、子どもたちにとって美術館が身近になる。美術館の今後を検討する際に、入館者数の増加はポイントになる。特に子どもの入館の増加は重要だ。数年後を見据えて、この協議会でも意見を出し実行につなげる。

**事務局(館長):**博物館法で登録博物館と指定施設が規定されている。堀光美術館はどちらでもない。時間はかかるが、堀光美術館がある目的をもって指定施設を目指してはどうかと思っている。指定を受けるにはそれなりの設備が整備されていないといけないので、外部から美術品の貸し出しを受ける時の信用になり、その話の入り口を持ちやすくなる。指定を受ける条件は、美術館博物館として、適切な保管の環境が整備されているか、企画や教育面での活動が行われているかなどを県の教育委員会が判断することになっている。

今の設備のままでは条件はクリアされないはずだ。今後、施設を新設するときに指定施設の条件を踏まえて整えるという考えだ。

**委員:**指定を受けることで、例えば、西脇市出身の横尾忠則の作品が三木市で見ることが出来るようになるのはいいことだ。美術館の整備の条件に入れればよいと思う。

**会長:**いい提案だが、重要文化財が勝手に触れなくなるように、指定を受ける事での制約はないか。

**事務局(館長):**博物館法を見る限り、制約はない。しかし、指定されて以降、毎年、指定された時の状況が維持されているかどうかの報告が必要になる。継続的に注力しなければならなくなる。ただ、それはそれを強みとするのであれば当然行うべきことである。

**会長:**市の中期計画までに指定施設としての認定を目指すことも検討してほしい。

**事務局:**上田桑鳩展で9月7日に奎星会中原志軒氏による講演会と、中原氏、飛雲会の牛丸好一氏、公森仁氏によるギャラリートークを行う。また、市制施行70周年であることを受け、歴史資料館と美術館の共同開催である。美術館は入館料500円、歴史資料館は無料である。

この件は本日記者会見で発表し、明日以降、美術館のホームページにも掲載する。市制施行70周年を受けて歴史資料館と堀光美術館で同時期に上田桑鳩展を行う。奎星会や飛雲会、その他の書道団体会員も来館するので、是非、皆さんも来館してほしい。

**会長:**9月7日に実施されることの連絡と理解した。これで閉会とする。次回開催はいつごろか。

**事務局:**12月を予定している。日程調整を改めて行う。

閉会 副会長挨拶